

社会労働研究 14巻下号 : 学会消息

雑誌名	社会労働研究
巻	14
ページ	341-342
発行年	1962-03-20
URL	http://hdl.handle.net/10114/00017577

二 学 会 消 息 二

○社会学部は本年でいよいよ創立十周年をむかえました。学会も十周年を記念して本号を記念特集といたしましたところ、学部関係の諸先生から多くの御寄稿があり、編集員一同喜んでおります。

○このため十四号は上下の二巻といたしましたところ、印刷事情のせいもあって下巻の発刊が予定よりも大分おくれましたが、卒業式には間に合わすことができました。

○本年七月一日、日本近代文学研究所と共催で「種蒔く人」四十周年記念講演会を開催いたしました。

「種蒔く人」の同人であつた小牧近江（近江谷駒教授）をはじめ、金子洋文、今野賢三、佐々木孝丸等の諸氏も参加され、あいさつされたのち、長谷川博（社会学部教授）、増島宏（社会学部助教授）小田切秀雄（文学部教授）、中野重治（作家）、高見順（作家）の各氏の講演があり、盛会裡に会を閉じることができました。

○又十二月二日には社会学部十周年記念式典および講演会を次のようにおこない

ました。

式典 司会 湯川 和夫教授

あいさつ 社会学部部长 中島 正氏

（祝辞） 法政大学総長 有沢広巳氏

〃 校友会代表 布川角左衛門氏

〃 後援会代表 高山 梅雄氏

〃 卒業生代表 吉村 耕太氏

花束贈呈

校歌斉唱

講演会 司会 田代正夫教授

十年のあゆみ

社会学部教授 逸見 重雄氏

社会階層とイデオロギー

東京大学教授 日高 六郎氏

日本経済の現状と展望

前法政大学総長 大内 兵衛氏

音楽

バイオリン 外山 滋氏

ピアノ 池本 純子氏

なお終了后開催した祝賀会には卒業生諸君も多数参加され、久しぶりに卒業生諸君とも交流ができました。今後もできるだけこのような機会をつくりたいと思っております。

○六一年度には、逸見教授、増島助教授が外遊されました。

○逸見重雄教授はベトナム民主共和国の招待により日本ベトナム友好協会代表として一九六一年七月十四日より八月十日まで中国をへてベトナムを訪問されました。この間、ジュネーブ協定成立第七周年記念の大集会に出席、また社会主義工業化の実施状況の見学、さらに訪越友好使節団とベトナム平和委員会との間での「共同宣言」の発表に参加されました。

○増島宏助教授は東南アジア各国の学生生活の調査と政治経済事情についての資料の収集を目的として、一九六〇年十一月より六一年一月にかけて学生四名と共に、東南アジア自動車旅行をされました。なお、コース南ヴェトナムのサイゴンより、カンボジャのプノンペン、タイのバンコック、マラヤのクワラルンプールを通じてシンガポールに至る約七千マイルを通過して、本年四月より一年間の学留学生として、本年四月より一年間の予定で、イギリスを中心に、社会思想の研究にあたられます。

○かねてから準備中であつた社会学部学生学会が本年度より正式に発足いたしました。本学会と密接な関係のもとで学生独自の研究組織として順調に発展するよ

う希望します。

○学生会発足にともない、学生会則の一部を改正して、事務局を創設し、事務局長が学生会との連絡にもあたるようになりました。このような組織をつうじて先生方と学生との間の学問交流が一層すすめられることと思います。

○卒業生諸君は、卒業と同時に退会する

こととなりますが、ひきつゞき会費三百円を納入されれば会員としてとゞまることができ、社会労働研究の配布をうけることとなります。会費郵送の場合は社会学部資料室宛に書留で送って下さい。(おことわり) 田代正夫教授の論文を予告どおりに掲載することができなかったことをお詫びいたします。

法政大学社会学部学生会則(一九六一年四月改正)

第一条 この会は法政大学社会学部学生会という

第二条 この会の事務所は法政大学社会学部内におく

第三条 この会は会員の学術研究を交換し、あわせて相互の連絡をはかることを目的とする

第四条 この会は前条の目的を達するため、左の事業を行う

一、機関誌「社会労働研究」(毎年一回以上)および社会問題、労働問題に関する研究叢書の刊行

二、定例研究会および公開講演会の開催

三、その他この会の目的を達するために必要な事業

第五条 この会は左の者を以て会員と

する

一、法政大学社会学部の教授、助教授専任講師、助手

二、法政大学社会学部学生および卒業生

三、この会の評議員会が推薦または承認した者

第六条 この会に左の役員をおく

一、会長 社会学部長

二、評議員 第五条第一項の者より若干名、および互選により選出された学生、卒業生若干名

三、会計監事 第五条第一項の者より若干名、但し評議員と兼任はできない。

第七条 機関誌「社会労働研究」の編集のために編集委員会をおく

三四二

第八条 この会の事務を処理するため事務局をおく。事務局長は評議員の互選によってきめる

第九条 会長を除く役員の任期は一年とする 但し、再任を妨げない

第十条 会長はこの会を代表し、評議員はこの会の運営にあたる

第十一条 会長は毎年一回以上会員に会務を報告しなければならない

第十二条 この会の運営に関する細部の事項はこの会の内規による

第十三条 この会の会員は会費として年額三〇〇円を納めなければならない

第十四条 この会の会員は機関雑誌「社会労働研究」の配布を受け、これに投稿することができ。但しその採否は編集委員会が決めることがある。

第十五条 この会則の改正は評議員会の決議による

附 則

学生評議員の定数にかんする内規

第一学部 十 名

第二学部 四 名

事務局に関する内規

事務局は事務局長および総務・会計を担当する事務局員によって構成される。総務担当事務局員には第一学部学生十名

第二学部学生四名の学生がふくまれる